

カンパニー ナウ COMPANY 第74回 NOW!

日本エムエムアイテクノロジー

— 独自の発想・技術を生かした“香り”ビジネス

「ビジネスはやはり人と人とのつながりが一番大切」と語るのは日本エムエムアイテクノロジー（株）の齊藤哲也社長。

1996年に設立された同社は、ゲームソフトおよびハードの開発からスタートし、これまでさまざまな分野の開発に携わってきたが、今「圧電型セラミック振動子」というテクノロジーをキーに独自の発想・技術を生かした開発型企业へ歩みを進めようとしている。

圧電（ピエゾ）とは、ある種の結晶に備わった性質で、電気を加えると変形し、逆に変形を加えれば電気を発生する現象。この性質を利用して電氣的振動を機械的振動に変換できるが、また、その逆も可能となる。

同社は、セラミック振動子を媒介とした商品化に取り組んでいるが、その一つが2002年より開発に取り組み、2年の歳月をかけて完成した世界初となる圧電型霧化装置「センツライザー」（Scents-Riser）である。アロマセラピーなどで使用される粘度の高い精油に、セラミック振動子を使った装置で電氣的振動から変換した機械的振動を与え、特殊電子回路により直接霧化を実現した。

熱を持たないことから安全性に優れ、従来の製品と異なり高濃度の香料を直接セットできるため高い拡散能力を持つ。小型化も可能で、多様な用途が期待できる。すでに大手コーヒーショップチェーンのトイレタリーコーナーに導入が決定しているほか、アロマセラピー製品として商品化されたものが今年度中にも発売される予定だ。

ソフト開発から“香り”ビジネスへの参入は意外な感も受けるが、きっかけは齊藤社長の発想だった。

「かつてラリーゲームの開発を打診されましたが、競合するものは多い。そこでゲームの白熱化とともに、サーキットのにおいも再現できれ

「ネットワークからさまざまな開発の種が持ち込まれます」と語る齊藤社長



ばおもしろいのではないかと考えました」（齊藤社長）

当時は、実現こそしなかったものの、その後、パチンコの大当たりの直前に香りを流すというアイデアなど“香り”について研究、取り組みを重ね、この間に蓄積した“香り”に関するノウハウと、「圧電型セラミック振動子」を組み合わせ結実したのが、「センツライザー」である。

「圧電型セラミック振動子」による振動を活用する用途はこれにとどまらない。現在、医療機関でのMRI（核磁気共鳴画像診断装置）における音声通信装置や、ヘルメットに装着する骨伝導スピーカー・マイクの開発を進めている。

今までのMRI装置では強磁界の影響で患者は医者との会話がまったくできなかったが、この振動子を応用すれば会話も可能となる。キーである「圧電型セラミック振動子」については、この分野でのトップメーカー、NECトーキン（株）と共同技術開発の関係にあるが、同社との接点はソフトおよびハード開発時代の人脈がベースだった。

齊藤社長は工学部出身だが、建設、貿易、そしてソフトおよびハード開発と多彩な業界経験の過程で築いた人脈が、さまざまな分野でのビジネスのヒント・発見をもたらしている。特許出願中のこれらの技術を商品化し、3年後の上場を目指す今後の展開に注目だ。

会社概要

日本エムエムアイテクノロジー（株）

企業コード：986791292

東京都港区芝5-3-2、電話03-5730-2311、代表齊藤哲也氏、設立：1996年8月、資本金2500万円、業種：セラミック振動子を利用した製品開発、ソフト開発、年収入高約1億6500万円（2005年3月期）、従業員：11人

<http://www.mmit.co.jp/>